

おおみや ストリートテラス

おおみやすとリーとてらす

1/2

埼玉県さいたま市 **ウォーカブル推進都市**

■人口：1,355,669人

■所在地：埼玉県さいたま市大宮区

■路線データ：



軒先利用



その他活用



駅前



商店街



地域資源活用 都市環境改善



■取組の概要

対象エリアは、首都圏有数の交通結節点である大宮駅周辺であり、駅と周辺市街地を結ぶ重要な歩行動線を含む。用途地域は商業地域で、再開発ビルの広場、都市計画道路の道路予定区域、公園等が点在し、公共・準公共空間が連続する立地特性を有する。

・課題

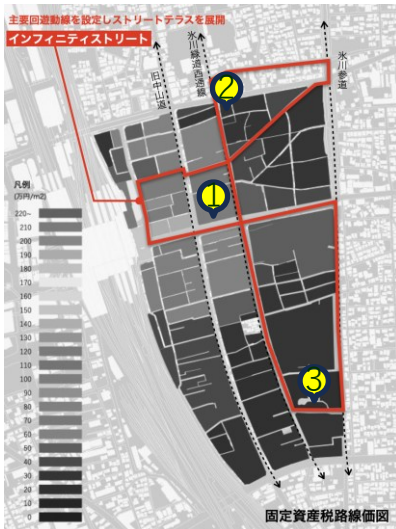
沿道空間が十分に活用されておらず、歩行者の滞留や回遊を生み出しにくい状況にあった。
また、通過動線としての性格が強く、まちの顔としての魅力や日常的なにぎわいの創出が課題であった。

・課題への対応

都市再生推進法人によるコーディネートのもと、社会実験を段階的・継続的に実施し、公共空間の新たな使われ方や運営の可能性を検証してきた。仮設的な空間づくりを通じて、歩行者中心の街路空間の形成と、公共空間整備や合意形成に資する基盤づくりを目指す。

■地域資源活用

- ・大宮駅周辺の人流・民間事業者・地域産業などの都市資源を、ストリートの利活用によって繋ぎ直し、にぎわいと交流の場へ転換している。
- ・ストリートプランツ（公民連携グリーンインフラ）の実装を組み合わせることで、緑化による居心地改善と、維持管理・運営スキームの検証を同時に進めている。これにより、空間の質向上と持続可能な管理の両立を図っている。
- ・このように、ストリートテラスを基軸に、プランツ（地元生産者）やスクール（人材育成）などの取り組みを複層的に導入することで、まちの価値を社会的・空間的・文化的・経済的に引き出している。



■参考情報URL：
UDCO公式ウェブサイト：
<https://www.udco.jp/>



おおみや ストリートテラス

おおみやすとリーとてらす

2/2

■都市区分 政令指定都市

■用途地域 商業地域

■路線延長 約0.5km

■再整備区間 -

■整備年代

- ・設計：2034年（予定）～
- ・整備（工事）：2035年（予定）～
- ・利活用：2017年～

■取組が位置づけられている計画、ビジョン等

本取組は「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」に位置付けられた「おもてなし歩行エリア」の考え方と連動し、公共空間の利活用を通じたにぎわい創出やエリア価値向上といった市の政策方針を具体化する役割を担っている。

■活用した国の施策・制度

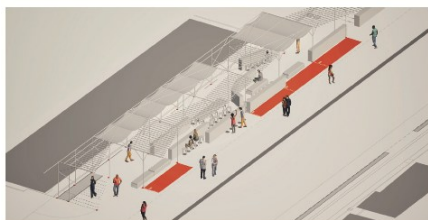
- ・地域活性化イベント占有
- ・特例道路占有
- ・公園施設設置許可制度

■問い合わせ先

- ・さいたま市 大宮駅東口まちづくり事務所
- ・アーバンデザインセンター大宮（UDCO）

■これまでの利活用状況

- ・おおみやストリートテラス（OST）俯瞰パース 2017年（道路暫定地利用）～2022年（コロナ特例占有）



OST2017 | @西通線 旧区役所前



OST2018 | @西通線 北区内



OST2019 | @西通線 北区内



OST2020-2022 | @一番街



複数の取り組みが重なり合うストリート

STREET TERRACE + PLANTS + SCHOOL



街路整備



街路整備

+ 滞在空間 | テラス・プランツ



街路整備

+ 滞在空間 | テラス・プランツ
+ 利活用 | 実行委員会・スクール

■整備主体

- ・整備（道路空間）：さいたま市
- ・活用（社会実験）：アーバンデザインセンター大宮

■整備・再構築状況

- ・整備に向け、用地取得中

■利活用状況

- ・再開発ビル前歩道部利活用（OMIYA STREET TERRACE）
- ・都市計画道路暫定地利活用（OMIYA STREET TERRACE 'DAILY'）
- ・都市公園利活用（OMIYA STREET TERRACE 'DAILY'）
- ・上記に加え、ストリートプランツプロジェクト（公民連携GI）、ストリートデザインスクール（官民連携まちなか再生事業）、ポップアップ（企業連携）などを組み合わせながら展開

■利活用団体

- ・おおみやストリートテラス実行委員会
（構成員：スクール修了生、地元事業者など）
（支援：アーバンデザインセンター大宮）